

妻

斎藤茂吉

青空文庫

妻はやはり Sexus Sequior と見立てなければつまりは満足は出来まい。そういうことを考えずに済む亭主は、温良で小さく美しくて京人形のような妻を有つてゐるものに相違ないとおもう。

女を甘やかす今の欧羅巴の※ Dame 社会状態は、全亜細亜人からも、それから古代ギリシヤ、古代羅馬の人々からも嘲笑されるに極まつてゐるといつたシヨペンハウエルは、果してそういう京人形のような妻をば有つてゐなかつた。それであるからシヨペンハウエルは、若くして恋慕の息吹をかけられなかつたと同時に、年老いても罪深い女人どもの懺悔を聞いてやらねばならぬ加特力の坊主の役をつとめなくとも好かつたのである。そのシヨペンハウエルは、女というものは足の短い肩の狭い臀ばかり大きいものだといつた。これは欧羅巴の女を罵つた言葉なのである。

僕は西暦一九二四年の初秋から、鼻の低い足の短い妻を連れて欧羅巴の大都市を歩いてゐた。シヨペンハウエルが、満身の力をこめて罵倒した欧羅巴の女どもといえども、どうしても僕の妻よりも器量が好い。けれどもそれを逆にいえば、僕は黄顔細鼻の男に過ぎぬ。これを当年のシヨペンハウエルに較べるなら、所詮僕は不器量に相違ないゆえに、諦

念して二人は一しよに歩いていた。

フランスから英吉利に渡り、英吉利から和蘭、独逸、瑞西とまわって伊太利のミラノに
 来た。ミラノに来たのは僕は二度目である、そうして歩いていくうちに妻はいつのまにか
 懐妊していた。僕はミラノでレオナルド・ダ・ヴィンチ一派の絵画をもう一遍見直そうと
 して、旅疲たびづかれのしている妻を引張りまわしながら丸三日を過ごした。妻は美術館などに
 入っても、絵画などはどうでもいいというような顔付をして茫然ぼうぜんとしてることが多か
 った。けれども僕はそんなことにはかまっていられないような気がして精を出して見て歩
 いた。

十月二日にミラノを立つてヴェネチアに向った。仏蘭西を出てからもはや二月ほどにな
 った。汽車は急行で、東方へ向って驀地まっしぐらに走っている。しばらくの間無言でいた妻は、
 その時何の前置もなしに僕にむいた。そして二人はこういう会話をした。

「日本の梅干ねえ」

「何だ」

「おいしいわねえ」

会話はそのまま途切れてしまったけれども、僕はその時、今までに経験しなかった一つ

の感情を経験したのであった。夫婦なんぞというものは一生のうちに一度ぐらいいは誰でも
こういう感情を経験するものかも知れぬ。あるいは運のいい夫婦はしじゅう経験している
のかも知れぬ。

僕はヴェネチアに四日いた。けれどもその時は梅干のことなどは忘れたように話さな
かった。そしてヴェネチアでは唐とう辛がら子の酢漬を買って見たり、小蛸こだこのうでたのなどを買
って食ったりしたのであった。

青空文庫情報

底本：「齋藤茂吉随筆集」岩波文庫、岩波書店

1986（昭和61）年10月16日第1刷発行

2003（平成15）年6月13日第7刷発行

底本の親本：「齋藤茂吉選集 第八巻〜第十三巻」岩波書店

1981（昭和56）年〜1982（昭和57）年

初出：「中央公論」

1926（大正15）年9月号

※底本巻末の相澤正己氏による注は省略しました。

入力：秋谷春恵

校正：高瀬竜一

2019年1月29日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作ら

れました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

妻
齋藤茂吉

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>